

平成30年度 第9回高山市教育委員会臨時会議事録

1. 日 時 平成30年10月1日（月） 午後1時30分から
2. 場 所 高山市役所 行政委員会室
3. 出席者 委員会 中野谷教育長、針山委員、打江委員、野崎委員、長瀬委員、白田委員
事務局 北村教育員会事務局長、西野教育総務課長、大森学校教育課長、尾崎文化財課長心得、北野学校給食センター所長、教育総務課 直井
4. 欠席者 委員会 欠席なし
5. 署名者 針山委員

午後1時30分開会

○中野谷教育長 本日の委員会は、出席者6名で、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定に基づき、定足数に達していますので、成立しております。ただ今から、平成30年度第9回高山市教育委員会臨時会を開会いたします。

○中野谷教育長 会議録署名委員の指名を行います。
本日の会議録署名委員は、「針山委員」を指名いたします。

○中野谷教育長 それでは次に日程第1、報告30「教育長職務代理者の指名について」を議題といたします。
事務局より説明願います。

○西野教育総務課長 <資料に基づき説明>

○中野谷教育長 事務局の説明は終わりました。只今の説明についてご質疑はございませんか。

(質疑なし)

○中野谷教育長 質疑がないようですので、職務代理者の指名について報告します。
職務代理者には引き続き針山委員を指名させていただくことを報告しますので、よろしく願います。改めてご意見をお伺いします。

(質疑なし)

○中野谷教育長 では、針山職務代理者から一言ご挨拶をお願いします。

(針山委員あいさつ)

○中野谷教育長 ありがとうございました。

では、これで報告30を終結いたします。

○中野谷教育長　それでは次に日程第2、報告31「小中学校前期・後期制の導入の検証について」を議題といたします。
事務局より説明願います。

○大森学校教育課長　＜資料に基づき説明＞

○中野谷教育長　事務局の説明は終わりました。ご質疑はございませんか。

○白田委員　昨年度までに保護者や地域に前期・後期制の導入の説明をし、理解を得て今年度から前期・後期制がスタートし昨年度とスケジュールが異なる部分がありますが、9月以降の天候不順の影響もあり、保護者の方の声として授業が予定どおりに進むのか不安に思われている話を耳にしましたので報告します。

○長瀬委員　課長より説明のあった各学校の前期・後期制に対応した年間計画については、事務局や学校訪問等のなかでも学校から説明を受けていますので、学校では前期・後期制に伴い意欲的に教育活動の見直しを行っていると理解しています。

質問になりますが、導入したことにより1つは教育活動を見直す機会となったという点がありますし、もう1つは三学期制では出来なかった新たな取り組みもあるかと思しますので、その辺りの整理が必要かと思います。

もう1点は、P6の「7. 懇談の充実」に導入に伴い懇談が充実したとの回答があり、懇談会の実施状況をまとめた表がありますが、調査が可能であればここに三学期制の際の懇談会の状況も記載することで、どのように充実したのかが、より明確になると思えます。また、同じ表のなかに家庭訪問についての記載がありますが、私も教員時代にはクラス全員の家庭を訪問し、親御さんや子どもの暮らす地域を理解することで、教育活動に大変プラスになったことを記憶しています。しかし、一方では相当の時間も要していたから授業等に負担となる部分もあります。現在の小中学校では実際にどの程度の時間を割いているのか、把握していればお願いします。

○大森学校教育課長　ご指摘いただいた部分で対応可能なものは内容を整理し、よりよい検証に努めます。家庭訪問については、校長の考えにより違いがあるようです。委員が仰せられたような効果を重視する場合がありますが、通常授業を優先して最小とするケースもあります。訪問に必要な時間については、私の経験からだと1クラス分を訪問するのに午後の時間帯を利用し4日間程度の期間が必要だと思えます。

○中野谷教育長　白田委員さん、保護者として家庭訪問はいかがですか。

○白田委員　1つの家庭の所要時間は10分程度だと思います。親としては、地域も含め子どもが育っている環境を見ていただけるのは有難いことだと思っています。

- 打江委員 私が小中学校保護者であった当時の感想になりますが、第一にお互いに親近感が湧きますし、家庭状況を理解いただくことで先生の個々への対応のヒントが得られているのではないかと感じます。
- 針山委員 確認になりますが、家庭訪問はどのような時期や時間帯に行っていますか。
- 大森学校教育課長 時期的には長期休業を利用することも考えられますが、新年度の早い時期に子どもの様子を把握することを考慮して5月が中心となり、時間帯は平日の午後に実施することが多いようです。
- 針山委員 家庭訪問のなかでは、日頃分からないような情報も得られると思いますが、全ての家庭を訪問することは出来ますか。
- 大森学校教育課長 プライベートであるご家庭を訪問させていただく訳ですので、なかには家庭への訪問は拒否されるケースもあります。
- 野崎委員 私が保護者だった頃のことを思うと、地域を見ていただくことで日頃はなかなか話せないような通学路の安全性も確認していただき、カーブミラーが設置されたような記憶もあります。今後については、保護者も共働きが増え日程調整に苦慮すると思いますし、先生方も多忙化していますので、担任が2年目であれば方法を工夫するなどして学校や保護者に負担感の少ない実施方法を検討してもいいのではと感じます。
- 長瀬委員 冒頭で話しましたが、私は高校教員でしたので家庭訪問というのは一般的ではありませんでしたが、訪問することで得られる効果があったので実施していました。ただ、時代も変わり共働きやプライベート保護、働き方改革ということを考えると、一定の効果があるので継続する意味はありますが、内容や方法は見直しをすることも必要かと思います。
- 針山委員 素朴な疑問として働き方改革とは逆行しますが、共働きなど様々なケースを考えたときに、家庭訪問を休日に行える可能性はありますか。
- 大森学校教育課長 法的な労働時間のことを考えると休日勤務を命令した場合は代休取得が必要となります。ただ、平日に代休を取得するには授業に影響が生じるため、現実的ではありません。可能性としては、長期休業中の実施も考えられますが、より効果的な実施時期を考え、もう少し早い段階の実施となっています。
- 針山委員 話題は違いますが、P6の課題にある「①長期休業を含めた積極的な評価活動の在り方（夏休み、冬休みの授業日設定）」「②教育活動の更なる精選（夏休み前後の天候不順に対応・・・猛暑、台風）」についてもう少し説明をお願いします。

○大森学校教育課長 ①については、前期・後期制の導入により夏休み期間中は前期に含まれるため、その間に授業を行った場合は授業としてカウントされ評価の対象にもなります。その機会を利用し実力テストを行い授業日とする方法もありますが、長期休業の子ども達の挑戦を成果として捉えた評価についても考える必要があると思っています。

②については、今年は猛暑や台風など気象条件により教育活動にも大きな影響がありました。学校には運動会や修学旅行などの全体調整や計画的実施が必要な行事も多くあります。これまで秋に集中していた行事を夏休み前に実施する学校があり、年間計画としての工夫も見受けられました。今後、導入を機会に行事の見直しや実施時期の変更など全体を見据え教育活動を精選していく必要があると捉えています。

○針山委員 次にP5に「5. 長期休業中における教育活動を授業としてカウント」とあり、本年度は小学校3校、中学校7校が夏休みの教育活動を授業としてカウント予定していたとありますが、授業時間を生み出すためには今後このような努力も必要かと思いますが、具体的なコマ数を把握していますか。

○大森学校教育課長 把握しておりますが、資料を持ち合わせていませんので、この場ですぐ回答ができません。

○針山委員 わかりました。先ほど白田委員からの発言にもありましたが、学習指導要領も過密化し、これ以外にも学校には様々な教育や活動が求められていることが、保護者の心配につながることの1つと思います。以前、土曜授業の実施を提案した際に、私は授業日で20日間、年間だと60時間ほどの違いがあると見積っていました。前期・後期制の導入により十数時間を生み出せた計算になりますが、まだまだ40～50時間が不足していると思っています。学校行事には保護者や地域と連携して行うことでより効果的な行事が多々あると思うので、例えば夏休みや冬休みを活用することで時間数を有効利用することができないかと考え発言しました。コマ数については、後日、情報提供ください。

○中野谷教育長 実態として災害等で授業を行えない場合に、時間数の不足を心配しなければいけないのは、中学3年生のみだと思います。年間で必要な授業時数としては確保されており、市内小中学校の教育課程で計画する授業は国が示す標準授業時数に対し10日程度は多いため、仮に災害等で10日程度の授業を行えなくても十分に吸収できる計算になります。従って、長期休業や土曜日の活用は慎重な対応が求められ、現段階では必要ないと考えます。ただし、中学3年生は受験を控え、卒業式も早いため状況にあわせた判断が必要になります。

○針山委員 計算上ではそのような理論になろうかと思いますが、学校訪問等で複数の学校で話を聞くには、義務教育に対する期待や要求は年々と高まっている傾向にあり、特に中学校では部活もあり現場としては手一杯の状態であると伺いました。このよう

な状況を少しでも解消し子どもと向き合う時間を確保するための手段としての、土曜授業は見送りましたが、その一つとして前期・後期制の導入をすすめてきたのだと思っています。

○中野谷教育長 現状として、土曜授業等を行わなくても授業時間数は確保されています。働き方改革のなかで次期学習指導要領の準備を進めるためには、学習内容の改善や行事の見直しが大切です。時間数の実情については、後日、情報提供します。

○大森学校教育課長 登校日が週6日で土曜授業が行われていた当時は、6時間授業が組める月曜から金曜のうち週3日は5時間授業を設定することができ、中学校の場合ですと週に3コマはクラブ活動や職員会議に活用することができていました。その後、国の週5日制の導入により授業時数が不足するため、フリーであった2コマは授業に充て、会議の時間も必要なため1コマ分は従前通り会議時間として確保しており窮屈な状態が続いていましたが、本年度に前期・後期制を導入したことにより、少なからず余裕が生まれたことで授業時数が確保し易くなったことは確かなことです。針山委員が言われるように、土曜日分としては60時間程度の授業数があったわけですが、この分は平日に空きがあったコマに授業数を増やすことで調整している状況です。高山市の場合は、年間40週近くありますから週に3コマ増やせば、年間120コマを増やす計算になります。先生方は勤務時間のなかで、授業や部活、会議をこなさなければいけないので、前期・後期制の導入により生み出した時間は時数以上に大きなものがあると思いますのでご理解ください。

○野崎委員 前期・後期制のアンケートについての質問ですが、3) 子どもたちを対象とした質問では児童会・生徒会の役員を対象に回答いただきますが、学校で規模に違いもあるためこの辺りの経緯を説明ください。また、2つ目には前期・後期制の間の期間が3日間だけの学校に質問していますが、学校による日数の違いについての補足があるのか説明ください。

○大森学校教育課長 アンケートの方法については、校長会において研究を行いました。まず対象者については、当初は小学校3年生以上の全ての児童・生徒にアンケートを行うことも検討しましたが、理解度も様々でありアンケート用紙を配付するだけで求める回答が得られるかは疑問との意見がありました。そのため、学校活動の中心的な役割りを果たしている児童・生徒会の役員に対して説明を行ったうえで意見を収集することが望ましいと考えました。2つ目の質問についても、同様に質問の趣旨等を説明し理解をしたうえで回答をしてもらう予定です。

○打江委員 子どもと向き合う時間を確保するための前期・後期制については、教育委員会においても膨大な時間をかけて様々な効果や影響について研究や議論をしてきましたし、保護者や子ども、地域、学校関係者にも説明し意見を聞きながら導入してきた経緯があります。このアンケートには地域の部分は含まれていませんが、地域にお

ける影響や実態について把握する必要があると考えますが、その辺りはどうですか。

○大森学校教育課長 地域という部分では、市民の代表である社会教育委員へ説明し意見を伺ってきた流れがあります。時期は未定ですが、評価についても同様に社会教育委員の方々のご意見を伺いたいと考えています。

○白田委員 冒頭で保護者の方の不安感の話をしました。保護者の場合ですと導入前後の違いについて明確に把握している方は以外と少なく、漠然とした感想を持たれている方が多いように思います。先ほど長瀬委員の発言にもあったように具体的な事例をあげることで、その事について明確な評価ができると思います。また、その事が前期・後期制の効果について共通理解を図ることにもつながると考えます。

○北村教育委員会事務局長 少し発言させていただきます。1つ目として評価という点については、導入目的と手段とがしっかりリンクしているかという点が評価対象になると思います。子どもと向き合う時間を確保するため、これまでに様々な取り組みを行ってきましたがそこには課題もあったため、その課題を解消する手段として前期・後期制に至ったのだと認識しています。そのためには、その課題に対しどの程度の解決が図れているかが評価になり、その事が評価できるような設問のあり方が必要だと考えます。

2つ目ですが、調査の対象は保護者の他に教職員、子ども達、学校とあり、それぞれに設問がありますが、例えば教職員に対しては「子どもたちと向き合う時間が増えたか」という設問があり「増えた」や「減った」は分かりやすいですが、ここにある保護者に対する設問は回答しにくい内容かとも感じます。また、子どもと向き合う時間の確保は1つの大きな目標であったので教職員のみならず保護者や子どもにも同様に質問し、どう感じているかを確認できるとよいと思います。

最後に学校教育課の評価についてですが、学校は小学校と中学校また学校規模等により条件も違いますので、前期・後期制の導入にあたっては共通の目標もありますが、個々の目標やねらいもあったのではないかと思います。アンケートを行う機会にその点も各学校で評価したうえで、その結果を受け全体として学校教育課の評価を行ってもいいのかと考えますので、本日のご意見を踏まえ内部で少し検討したいと思います。

○中野谷教育長 前期・後期制を導入し、前期が終了するタイミングで評価をすることが大事であると考えています。内容については精査し詰めていくこととしますが、ご意見等ございますか。

(異議なし)

○中野谷教育長 ご質疑も尽きたようでありますから、以上で質疑を終結します。

○中野谷教育長　　その他に報告がありましたら順次報告願います。

○尾崎文化財課長心得<飛騨高山まちの博物館 秋季特別展について説明>

○針山委員　　<教育委員会のあり方の研究について提案>

○中野谷教育長　　それでは以上を持ちまして、本日の議事日程が全部終了いたしましたので、本日の会議を閉じ、平成30年度第9回高山市教育委員会を閉会いたします。

午後3時05分閉会